

やまゆり牛勉強会 3年ぶりの対面開催 生産・販売一体となった意見交換の場 苦境の改善へ

JA全農かながわは10月24日、令和4年度第1回やまゆり牛勉強会を神奈川食肉センターで開催した。対面での勉強会は3年ぶりの開催で、やまゆり牛生産者6人のほか、JA東日本くみあい飼料株式会社、JA全農ミートフーズ株式会社が参加した。

勉強会では公益社団法人日本食肉格付協会による枝肉格付け講評、飼料改善の提案や販売会社による品質講評が行われた。

やまゆり牛はJA全農かながわが生産者協議会の事務局を務める県の銘柄牛で、県が認定する「かながわブランド」登録品でもある。

食肉販売所の古屋所長は「生産費用の高騰による厳しい状況の中で、全農としては生販一体となった意見

交換に注力していきたい。顔を合わせる機会を作ることが、状況の改善に少しでもつながればと思う」と意気込みを語った。



枝肉を見ながら意見交換が行われた

新規就農者の育成を目指して パイプハウス建て方研修会を実施

農産部は10月31日、JAさがみと連携し、海老名市の神奈川県立かながわ農業アカデミーにてパイプハウス建て方研修会を開催した。同アカデミーは農業の担い手育成機関として、次代のかながわ農業の担い手育成を目指し、必要な知識や技術の習得を支援している。当日は同アカデミーに在籍する学生58人が参加した。

研修会では農産部職員が講師となり、パイプハウスの建て方手順・作業時の注意点について説明をした他、気象災害に対するパイプハウスの対策・対応方法や過去に被害があった状況などについても座学を行った。その後、同アカデミーの圃場で、各種工具の使い方や部材の名称を確認しながら、パイプハウスの地取り作業やパイプの施行、フィルム展張などの実習を行った。

参加した学生は「パイプハウスの土台となる骨組みを水平にする作業は、資料だけ見ても理解するのが難

しい。実際に一から建てる作業を経験できてありがたい」と話した。

同部ではこうした支援のほか、昨年度より同アカデミー学生を対象に、農業経営を行う上での、JA経済事業を含む流通、販売戦略について、理解促進を図るための講義を行っている。



作業手順を教わる参加者

県キウイフルーツ園・柑橘園管理共進会を実施

農産総合課は10月21日に神奈川県キウイフルーツ園管理共進会、26日に神奈川県柑橘優良園管理共進会を開催した。

整枝状況、結果状況、栽培管理などを総合的に審査した結果、キウイフルーツは出品された9点のうち6点が特選に選ばれ、JAかながわ西湘の飯山富夫氏が神奈川県知事賞に輝いた。柑橘は特選2点であった。

「神奈川 6種の彩りハーバー」復活 今年も県内JA直売所にて販売

生活課が昨年県内全12JA、株式会社ありあけと共同開発した「神奈川 6種の彩りハーバー」が、お客さまからのご好評につき、11月19日から県内JA直売所にて再販されている。

同社が手がける県の銘菓「横濱ハーバー」とのコラボレーションを通じ、JA生活購買事業および県内JA直売所事業の活性化、そして県産農産物の認知度やブランド価値の向上を図る。

本商品は1箱でいちご、お茶、かぼちゃ、湘南ゴールド、梨、ブルーベリーの6種類の味が楽しめるアソート商品となっている。県内全12JAからの原料供給が実現したことで、JAグループ神奈川としての連携・一体感をより強めるも

のとして広く消費者へアピールする。

また、今回の販売を記念して本商品の購入者を対象に、各JAのオリジナル加工品セットが抽選で当たるプレゼントキャンペーンを実施する。

当県の農業は都心近郊ながら、地形や気候を生かして多品種にわたる青果物を生産しているのが特徴だ。生活課の田中雄也職員は「年末年始の帰省やちょっとした手土産に、ぜひ使っていただけたらうれしい」と販促に期待を寄せる。



施設部がテナント推進研修会を実施 地域性や出店動向を分析 コンサルティング機能向上へ

施設部は11月11日、横浜市にて「令和4年度テナント推進研修会」を開催した。テナント事業におけるコンサルティング機能の向上を目的に開催され、JA子会社職員を中心に約60人が参加した。

研修は三部制で、第一部で同部顧問弁護士を務める草薙一郎氏による法務研修、第二部でJA三井リース株式会社農林水産本部の市川一也氏による事業用定期借地権での土地活用事例の紹介、第三部でテナント業者4社による県内での出店動向の紹介があった。

「テナント事業を取り巻く環境は刻々と変化が続き、組合員に対する推進にあたっては出店テナントの業界動向、将来性を考慮したトータル提案が必要になっている」と小野忠久施設部長は話す。同部では今後も地域性を考慮した事例研修や、テナント業者との交流の機会を設けるなど、事業推進のサポートを進めていく。



契約に係るQ&Aを解説する草薙弁護士

昭和女子大学産学連携「JA☆ベジラボ」 学生考案のメニュー発表会を開催！

5月にスタートしたJA全農かながわ、三浦市農協、JAよこすか葉山、昭和女子大学、玉川高島屋S・Cの5者が産学連携して取り組むプロジェクト「JA☆ベジラボ」。そのプレゼンテーションが11月9日に行われた。

当日は36点のレシピについて、それぞれ考案した学生自ら、アイデアを思い付いたきっかけやこだわりを説明した。それらに対し審査する玉川高島屋S・C社員からも、学生ひとりひとりにメニューの感想や社会人の先輩としてのアドバイスを送るなど、熱意のこもった会となった。

昭和女子大学の佐川敦子准教授は「約2年間オンライン授業を受講していた学生にとって、学外に出てのプレゼンテーションは初めての経験ではないか」と話す。緊張しつつも発表を乗り越え、うれしさをにじませる学生の様子が見られた。

